

昨年保全地を囲む水路の掘削によるJRRの保線工事(水量の減少が問題になっていました。今年には会員の高田さんの協力で水路から保全地へ何本かの溝が掘られ、ある程度の水量が確保され例年通りの花が見られました。でもオニシモツケ、バイケイソウ、ヨブスマソウなど乾燥に強い植物が相当入り込んでいますので、夏の手入れでできるだけ除去しなくてはなりません。

JRRの工事

五月十九日、JRR工事関係者と今後の対策について話し合い、来年度の工事では保全地への水問題が考慮されることになりました。この保全地が小さいながら貴重なビオトープ(多様な生物の棲息地)であることをJRR側に理解してもらいました。

水芭蕉の赤ん坊

国道側の歩道と保全地境界の水溜り(蛙がいる)に、水芭蕉の赤ん坊が沢山見られました。来年は花が見られるかもしれません。水芭蕉は湿地なら花が咲きますが、水がないと発芽しないといわれています。

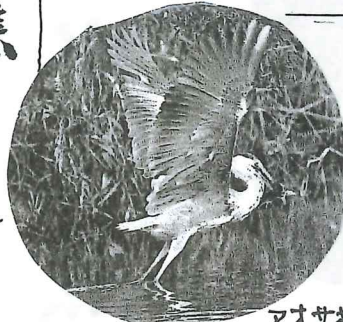
ホタル・サケの遡上

昨年、側溝にホタルは観察できましたが、毎年見られるサケの遡上は見られませんでした。自然は環境の変化に敏感なのですね。

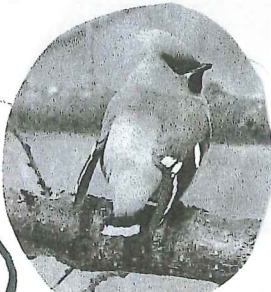
水芭蕉写真展

呼人コミセンに展示パネル(約10メートル)が出来、「呼人水芭蕉展」を開催しました。同時にこれまでの水芭蕉通信を展示しました(会員募集のキャンペーンを兼ねて)。四月末水芭蕉の最盛期に雪が降って残念でしたが珍しい水芭蕉風景が現れました。

村を出て帰らぬ友よ 水芭蕉  
水芭蕉 細い流れに板の橋  
色児



アオサギ



キリンジャク

2016年5月発行  
**呼人水芭蕉通信12号**  
網走湖・水と緑の会  
網走市呼人187-1 森の家内 TEL 0152-48-2223 FAX

2016年5月5日 水と緑の会  
**ミズバショウいろいろ**  
水と緑の会 呼人コミセンで写真展

2016年5月5日 網走タイムズ



2016 呼人水芭蕉展 5月2日-5月3日 網走湖 水と緑の会

市呼人の網走湖畔に群生するミズバショウを紹介する写真展が、31日まで呼人コミセンで開かれています。同群生地での保全に取り組む網走湖・水と緑の会(清水晶子会長)の主催。観覧無料。会場には同会の会員

らが撮影したミズバショウの写真を15点と、同会がこれまでに発行してきた会報「呼人水芭蕉通信」をパネルにして展示している。「水芭蕉さまざま」というタイトルの通り、ど、さまざまミズバショウを見ることができ

呼人コミセンで開かれている水芭蕉写真展のささまざまなミズバショウの表情を見てもうれば」と、観覧を呼びかけている。同会は「網走の原風景でもある、網走湖畔のささまざまなミズバショウの表情を見てもうれば」と、観覧を呼びかけている。呼人のミズバショウ群落は14年前、群落のある雑木林に売り地の看板が立ち、群落が失われることを危うくした市民有志が募金運動を展開。全国から寄せられた浄財を基に雑木林を買い上げ、永久保存を条件として市に寄付。同会が植生の調査や清掃などの活動で保全に努めている。

(伊藤)

水芭蕉さまざま  
**呼人水芭蕉展**

- ・場所 呼人コミュニティーセンター
- ・期間 5月2日(月)から5月31日(火)
- ・9時から6時 日曜休館 無料
- ・主催 網走湖・水と緑の会
- ・連絡 48-2223(清水)



14年前呼人の水芭蕉群落のあるヤチダモ林(約1500坪)に売り地の看板が立ちました。水芭蕉だけではなく、周りに流れる小川には夏は蛍、秋は鮭の産卵が見られる場所です。国定公園から外れているため何の規制もありません。廃車置場になるといううわさがたち、心配した住民有志が呼びかけ、その林を買いあげる募金運動をしました。2年足らずの間に全国から1000件を超える募金が集り、そのヤチダモ林の買い上げに成功しました。土地は永久保存の条件で網走市に寄付し、市民が管理することになり現在に至っています。網走の原風景でもある網走湖畔の様々な水芭蕉の表情をご覧いただければ幸いです。

**会員募集** 年会費 1000円 年一回 呼人水芭蕉通信をお届けします  
郵便振替口座 02730-3-20099 網走湖・水と緑の会

写真撮影 佐藤正博・竹内勇・清水敦

2016年5月27日 網走タイムズ  
**ごみを拾い、水流を制御**

市呼人にあるミズバショウ群落の保全に取組んでいる網走湖の水と緑の会(清水晶子会長)が17日、同群落の手入れをした。毎年、この時期に行っているもので、参加者は咲き始めたミズバショウを眺めながら、同群落内のごみなどを拾い集めた。会員や市民など、約30人が集まった。地域の環境保全に協力しようとして、今年もNGKオホーツク(市呼人)の社員が参加した。数日前に暴風雪が襲って以降、陽気が遠ざかり、当日も作業が難しく、心配されたが、朝には青空も見え、作業に回復。予定通り作業を進めた。集まった会員らは市のボランティアごみ袋を手に、ミズバショウを踏まないよう足元に注意しながら群落内のごみを拾い集めた。また、湿地に育つミズバショウにとって、群落内の水の流れは重要。参加者は水の流るれを妨げる木の枝を取

雪量が少なく雪解けも早かったため3月下旬には雪がなくなり、春らしからぬ陽気もあつて4月に入ると同時にミズバショウも開き始めた。数年前には群落の周囲で側溝に手が加えられたため、群落内に水が流れ込まなくなつたこともあつた。同会が工事主体の事業者にミズバショウへの影響を伝えたと、来年も同様の工事が群落地周辺で行われる予定で、事業者が事前に同



今年も水と緑の会や地域の企業などが、ミズバショウ群落地を手入れた

(伊藤)